

当財団理事シハブ・アハマド・アル・ファヒーム駐日 UAE 大使のご参加のもと、石垣島の名蔵湾でマングローブ植林を実施いたしました

一般財団法人 INPEX JODCO 財団（以下、当財団）は、当財団理事のシハブ・アハマド・アル・ファヒーム駐日アラブ首長国連邦大使のご参加のもと、八重山ライオンズクラブおよび特定非営利活動法人 国際マングローブ生態系協会（以下、ISME）と共催し、石垣島名蔵湾でマングローブの植林を行いました。

アラブ首長国連邦（以下、UAE）は、2030年までに自国で1億本のマングローブを植林する目標を発表しています。2022年11月、エジプトで開催された国連気候変動枠組条約第27回締約国会議の際には、UAE およびインドネシアの主導のもと、日本を含む7か国により「気候のためのマングローブ・アライアンス(MAC)」が立ち上げられました（2024年10月時点の参加42か国1組織）。本植林活動は、気候変動への取り組みおよびUAEと日本の環境交流の一環として、国連気候変動枠組条約第28回締約国会議がUAEで開催された昨年2023年より、アル・ファヒーム大使の発案により実施されているものです。

今回実施された植林活動には、アル・ファヒーム大使とご子息、当財団、八重山ライオンズクラブ、ISME、八重山農林高校の生徒、陸上自衛隊石垣駐屯地の自衛官ら約100名が参加しました。幅広い年代の参加者が一丸となり600本のヤエヤマヒルギの苗を植林した後、昨年植林したヤエヤマヒルギの苗の成長を確認し、苗に引っかかった海藻を取るメンテナンスを行いました。

本植林活動は、持続可能な自然環境を次世代に引き継ぐという環境保全活動の一環であります。石垣島のみならず、UAEと日本、また、世界の気候変動対策への意識を高める良い機会となりました。



当財団は、引き続き、UAEと日本の環境交流に資する事業の実施を推進してまいります。